



右から、瀧本社長、岡山県連の永田さん、備前東商工会の岡下さん、亮さん。岡下さんは、「事業承継の準備には、社長と後継者のポジショニングがかなり大事。亮さんの熱意と努力を社長が見守り、支えたことが大きな成果につながっています」と話す

同塾の担当だった岡山県商工会連合会広域サポートセンターの永田直之さんは、「塾では、事業価値を高める経営レポートの作成などを通じて、会社と後継者自身の現状把握や分析を実施しました」と話す。経営者に必要な基礎知識を身につけていく亮さんとともに、

チーム型伴走支援で、企業力の強化に成功

「会社や工場を見て、改善できそうだと漠然と感じる部分はあったのですが、何から始めたらいいのかわからない。そもそも『経営課題』って何？という状態」と

亮さんは苦笑する。一方で瀧本さんも、「私自身、義父から継いだ会社を存続させるのに精一杯で、自分なりのやり方で経営を進めてきたので、うまく教えてやることのできなかった」と話す。そんなとき、亮さんが目にしたのが、商工会から送られてきていた、岡山県商工会連合会が主催する「おかやま後継者養成塾（現・おかやま後継者アカデミー）」のチラシだった。「後継者が立派な社長になるための必須の基礎知識を身につける」という一文に、「これだ」と感じ、「受講したい」と社長に訴え、参加することになった。ここから、社長、後継者、商工会組織、専門家が一体となった、事業承継への準備が始まる。

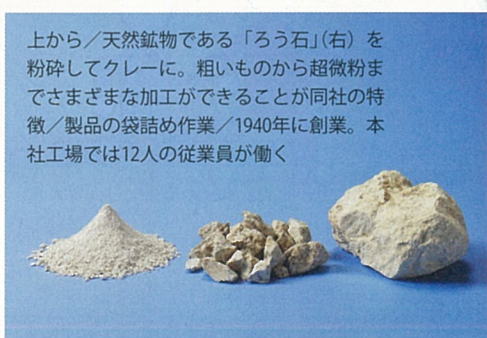
永田さんは地元の備前東商工会の岡下知史さんと連携し、チーム型の支援体制を構築。事業承継診断などをするなかで、解決すべき課題の優先順位づけを行い、企業強化に向け、「ものづくり補助金」への挑戦を提案した。「そこで初めて、社長と向き合っていた『経営計画』をつくりました。僕にとって、とても大きな一歩でした」と亮さん。「毎朝毎晩、永田さんに電話で相談して」「亮さん」書き上げた申請書は、無事採択を受け、補助金で最新のクレー製造設備を導入できた。

さらに、事業承継コーディネーターや公認会計士などの専門家を派遣し、事業承継計画づくりをサポート。亮さんと瀧本さんは、社内の業務再編にも一体となって取り組み、後継者育成とともにクレーの高品質化による競争優位の確立に成功した。こうした改革が実を結び、昨年、国の『はばたく中小企業・小規模事業者300社』にも選ばれた。

後継者の悩みを救った、一枚のチラシ



瀧本社長（左）と後継者の亮さん。企業強化と事業承継への準備に、一体となって取り組んだ



上から／天然鉱物である「ろう石」(右)を粉砕してクレーに。粗いものから超微粉までさまざまな加工ができることが同社の特徴／製品の袋詰め作業／1940年に創業。本社工場では12人の従業員が働く

「祖母の遺言に心揺れ、事業承継を決意」岡山県備前市に、全国で5社しかない「湿式クレー」を製造する会社がある。「天然鉱物である『ろう石』を砕いてつくる地域産業資源で、ゴムや塗料、接着剤などの『つながり』として必要不可欠なものなんですよ」教えてくれたのは、従業員12人を抱える山陽クレー工業株式会社の代表取締役・瀧本弘治さん。同社は1940年に創業し、国内で唯一「湿式クレー」と「乾式クレー」両生産体制を備え、売り上げ規模で地元業界トップを誇る。「そうはいっても、生産工程を創業当時とは変えずにやっていたので、設備は老朽化し、従業員も高齢にこの先どうしたらいいか、悩んでいました」という瀧本さんを、前向きな行動力で支えているのが後継者であり、長男の亮さんだ。「祖母の遺言が『会社も頼むよ』。それまで家族の誰もそういう話をしなかったのですが、祖母の本心に触れて心が揺れました。そこに弟からの『山陽クレーをどうすんな』というダメ押しの一言。継ぐことを決めました」(亮さん)

承継期

山陽クレー工業株式会社
×
岡山県商工会連合会
備前東商工会
(岡山県備前市)



社長と後継者が向き合い、未来にはばたく企業に

「後継者に安心してバトンを渡せる会社になりたい」。社長がそう考えていた小さな企業で、後継者が育ち活躍している。会社が未来へと歩み出した。

岡山県備前市に、全国で5社しかない「湿式クレー」を製造する会社がある。